

【目標3】専門医としての手術、処置技術

●研修方略は

- (i)自己学習による研修
- (ii)臨床現場での指導者の下での研修
- (iii)学会の企画認定した講演、シンポジウム、講義、教育集会などでの研修から選択する。

●目標レベルは

手術の場合

- A 自身で術者として施行することができる
- B 第1助手として手術を施行することができる
- C 助手として手術を経験しておくべき
- D 自身では施行しないが、手術を見学し、方法の概略、適応、合併症などを説明できる

手術以外の処置技術

- A 自身で適応を判断し、実施を求められる処置技術
- B 指導者のもとで経験することを求められる処置技術
- C 既略の知識を有することを求められる処置技術

目標レベルCまたはDの項目については、それぞれのレベルの内容を踏まえ、経験目標症例数は提示していない。

(1)リウマチ性疾患の外科的治療(内科系)

番号	大項目	中項目	小項目	最小項目	具体的修練目標の範囲	研修方略	目標レベル	経験目標例数	
1	特徴、手術適応 (手術の時期)				①外科的治療の適応と限界を述べ、適切な時期に専門医に紹介することができる。 ②手術の成績と予後について概説できる。 ③最新の外科的治療について概説できる。	i, ii, iii	D		
	術前・術後管理 目標、評価法				術前後の管理の要点を概説できる。 手術による機能改善の目標を概説でき、術後の機能評価ができる。				
	手術の種類	a 関節形成術	1) 人工関節置換術 2) その他の関節形成術						
		b 滑膜切除術	1) 外科的滑膜切除 2) 鏡視下滑膜切除						
		c 関節固定術							
		d 変形矯正術	1) 骨切り術						
		e 脊椎の手術							
		f 腱の手術							
		g その他の手術							
h 手術の合併症									

	手術の合併症				1)を含む術後の急性期・晩期合併症について概説できる。			
2	上肢の手術	a 手指、手関節			手術の適応、手技、合併症を概説できる。	i, ii, iii	D	
		b 肘関節						
		c 肩関節						
	下肢の手術							
		a 足趾						
		b 足関節						
		c 膝関節						
		d 股関節						
	脊椎の手術 多関節の手術							
3	関節内注入治療				適応、手技、合併症を概説でき、安全に実施できる。	i, ii, iii	C	

(2)リウマチ性疾患の外科的治療(外科系)

番号	大項目	中項目	小項目	最小項目	具体的修練目標の範囲	研修方略	目標レベル	経験目標例数	
1	特徴、手術適応 (手術の時期)				①外科的治療の適応と限界を述べるができる。 ②各手術の手技を概説できる。 ③術後の急性期・晩期合併症について概説できる。 ④手術の成績と予後について概説できる。 ⑤最新の外科的治療について概説できる。	ii	B	30	
	術前・術後管理				術前後の管理の要点を概説でき、指導医のもとで実行できる。	i, ii, iii			
	目標、評価法				手術による機能改善の目標を概説でき、術後の機能評価ができる。				
	手術の種類	a 関節形成術	1)人工関節置換術 2)その他の関節形成術			指導医のもとで第1助手としてa~gの手術を実行できる。			
		b 滑膜切除術	1)外科的滑膜切除 2)鏡視下滑膜切除						
c 関節固定術									
d 菱形矯正術		1)骨切り術							
	e 脊椎の手術								

		f 腱の手術						
		g その他の手術						
	手術の合併症	a 静脈血栓症			1)を含む術後の急性期・晩期合併症について概説できるとともに、適切に対処できる。 日本整形外科学会「静脈血栓症予防ガイドライン」を概説し、適切に対処できる。			
2	上肢の手術	a 手指、手関節			指導医のもとで第1助手としてaからdの手術を実行できる。	i, ii, iii	B	30
		b 肘関節						
		c 肩関節						
	下肢の手術	a 足趾						
		b 足関節						
		c 膝関節						
		d 股関節						
	脊椎の手術 多関節の手術							
3	関節内注入治療				適応、手技、合併症を概説でき、安全に実施できる。	i, ii, iii	A	10

【目標6】ローテーション研修

リウマチ専門医は取り扱う領域の特殊性から、内科的治療および外科的治療のいずれをも理解できることが患者から求められている。この要求に応えうるリウマチ専門医を育成するために、内科系医師が外科領域を、外科系医師が内科領域を相互に研修することをリウマチ専門医取得の必須課題とする。

●研修方略は

- (i)自己学習による研修
- (ii)臨床現場での指導者の下での研修
- (iii)学会の企画認定した講演、シンポジウム、講義、教育集会などでの研修から選択する。

●目標レベルは

- A 内容を詳細に理解している
  - B 概略を理解している
- から選択する

(1)内科系医師の外科領域ローテーション研修

番号	大項目	具体的修練目標の範囲	研修方略	目標レベル	経験目標例数
1	1 院内・外の整形外科カンファランスへの出席	カンファランスにおいて関節リウマチ患者の病歴や、病態に基づく治療法、手術的介入の是非を討議する。 ●当該患者の内科的治療歴とその限界を説明できる。 ●外科的侵襲治療の適応と限界を述べることができる。 ●術後急性期および晩期合併症について述べるができる。	ii	B	3回
	2 関節手術の見学	原則として申請者が術前カンファランスで討議に加わった症例の手術を見学する。手術助手として参加してもよい。 ●肉眼的関節病巣を説明し、病理学的所見と関連付けて述べるができる。 ●関節機能の破綻状態を述べ、関節/筋腱再建術手技を説明できる。 ●術後急性合併症とその予防・対処法を述べるができる。	ii	B	3例
	3 日本リウマチ学会認定関節外科領域研修講演受講	●外科的侵襲治療の適応と限界を述べるができる。 ●術後急性期および晩期合併症について述べるができる。	iii	B	3単位

(2) 外科系医師の内科領域ローテーション研修

番号	大項目	具体的修練目標の範囲	研修方略	目標レベル	経験目標例数
2	1 院内・外の膠原病・リウマチ内科カンファランスへの出席	<ul style="list-style-type: none"> <li>●難治性の関節リウマチ患者の内科的治療法の選択過程を概説できる。</li> <li>●診断の困難なリウマチ・膠原病患者の病態を概説できる。</li> <li>●合併症を発症したリウマチ・膠原病患者の原因・症状・評価・対策を概説できる。</li> </ul>	ii	B	3回
	2 膠原病・リウマチ内科診療研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関節リウマチの関節外症状の徴候・所見を概説できる。</li> <li>●代表的な膠原病の症状・検査所見から診断・病勢評価への過程を概説できる。</li> <li>●リウマチ・膠原病の治療の副作用の症状・対策を概説できる。</li> </ul>	ii	B	10例
	3 日本リウマチ学会認定内科領域研修講演受講	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関節リウマチの内科的治療体系を概説できる。</li> <li>●代表的な膠原病の病因・病態・診断・治療を概説できる。</li> <li>●リウマチ・膠原病の代表的治療薬の副作用の症状・対策を概説できる。</li> </ul>	iii	B	3単位